

南陽市遺跡分布調査報告書 (3)

2016年3月

南陽市教育委員会

南陽市遺跡分布調査報告書 (3)

南陽市埋蔵文化財調査報告書第11集

平成28年3月

南陽市教育委員会

序

この度、「南陽市遺跡分布調査報告書（3）」を発行する運びとなりました。本書は、南陽市教育委員会が平成27年に実施した、各種の開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るための踏査、試掘調査、立会調査と、遺跡台帳整備のための分布調査の結果をまとめたものです。

継続的に調査を続けている通称「赤湯古墳群」の一つである上野山古墳群の周辺地での古墳の発見をはじめ、これまであまり遺跡調査が進んでいない地域へ積極的に調査を進めたことにより、郷土の歴史を物語る遺跡が新たに確認されております。

本市は、北に丘陵、南に沃野と豊かな自然に恵まれ、旧石器時代から中世に至るまで、数多くの遺跡が存在します。人々が生活した住居跡・古墳・役所跡・城館等の「遺跡」と、石器や土器等の「遺物」は、大地に埋まっている貴重な文化財であるため「埋蔵文化財」と呼ばれ、市内各地には、悠久の歴史を物語る埋蔵文化財が眠っております。土地を離れて人の生活は無く、その土地にはその土地の歴史が息づいております。埋蔵文化財は、その土地や地域の歴史を明らかにし、地域の宝として世代を越えて伝えられ、人々の地域への愛着やそこに生きる人々の誇りと自負を育んでいくものとなります。

現代を生きる私たちは、様々な営みの中で土地を利活用し、開発を行うこととなりますが、埋蔵文化財を大切にし、ふるさとの歴史を守ることを忘れてはなりません。

私たちには、埋蔵文化財を保護し大切に後世へと引き継いでいく責任があります。分布調査は、埋蔵文化財の所在を把握し、埋蔵文化財を保護するための第一歩となるものです。

最後になりましたが、調査にご指導、ご協力をいただいた関係各位に、厚くお礼を申し上げます。

平成28年3月

南陽市教育委員会

教育長 猪野 忠

凡例

- 1 本報告書は、南陽市教育委員会が実施した開発事業との調整並びに遺跡台帳（遺跡地図）整備に関する市内遺跡分布調査報告書である。
- 2 調査期間は、平成 27 年 2 月 4 日から平成 27 年 4 月 8 日までである。
- 3 調査体制は次のとおりである。
調査主任 角田 朋行（課長補佐兼埋蔵文化財係長）
調査補助員 鈴木 輝生（埋蔵文化財係技能士）
主 幹 課 スポーツ文化課 課長 江口和浩（3 月 31 日迄）
社会教育課 課長 田中吉弘（4 月 1 日以降）
- 4 本報告書の作成、執筆は、角田朋行が担当し、遺物実測は、山田渚が担当した。
- 5 挿図の縮尺は、各図に示し、各々スケールを附した。
- 6 写真図版は任意の縮尺で採録した。
- 7 小字名は、地名記録の観点から明治期の地籍図によるものとし、現小字名を括弧書きで採録した。
- 8 本調査にあたっては、次の方々によるご指導、ご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。（敬称略）
佐藤鎮雄、佐藤庄一、長井謙治、高橋 拓

目 次

I	調査の概要	
1	調査の目的と概要	1
2	調査方法	1
3	調査位置図	2
4	調査実施一覧	4
II	遺跡台帳・遺跡地図整備に係る分布調査（踏査）	
1	上野山古墳群	5
2	松沢地区	6
3	西原遺跡	8
4	治兵衛壇遺跡	9
III	試掘調査	
1	沢田遺跡	10
IV	立会調査	
1	蒲生田館跡	11
2	宮内字田町（市道鏡田線）	13
3	富塚遺跡隣地	16
4	桜田遺跡	17
5	清水上遺跡	20
6	柳町遺跡	23

挿図目次

第 1 図	調査位置図 (1)	2
第 2 図	調査位置図 (2)	3
第 3 図	上野山古墳群位置図	6
第 4 図	松沢地区踏査範囲図	7
第 5 図	西原遺跡位置図	8
第 6 図	治兵衛壇遺跡位置図	9
第 7 図	沢田遺跡試掘位置図	10
第 8 図	TP1 柱状図	10
第 9 図	蒲生田館跡開発予定位置図	11
第 10 図	蒲生田館跡平面・断面図	12
第 11 図	市道鏡田線平面図	14
第 12 図	TP1、TP2 柱状図	14
第 13 図	市道鏡田線出土遺物実測図 (1)	14
第 14 図	市道鏡田線出土遺物実測図 (2)	15
第 15 図	富塚遺跡隣地位置図	16
第 16 図	富塚遺跡隣地 TT1 柱状図	16
第 17 図	桜田遺跡調査位置図	17
第 18 図	桜田遺跡平面・断面図 (1)	18
第 19 図	桜田遺跡平面・断面図 (2)	19
第 20 図	清水上遺跡立会調査位置図	20
第 21 図	清水上遺跡平面図	20
第 22 図	清水上遺跡 TT3 平面・断面図	21
第 23 図	清水上遺跡 TT1 断面図	22
第 24 図	柳町遺跡立会調査位置図	23
第 25 図	柳町遺跡平面図	23
第 26 図	柳町遺跡柱状図	23

図版目次

図版 1	上野山古墳群・字夷平山	25
図版 2	字夷平山・松沢地区	26
図版 3	西原遺跡・治兵衛壇遺跡・沢田遺跡	27
図版 4	蒲生田館跡・宮内字田町	28
図版 5	宮内字田町	29
図版 6	富塚遺跡・桜田遺跡・清水上遺跡	30
図版 7	清水上遺跡・柳町遺跡	31
図版 8	柳町遺跡	32

南陽市遺跡分布調査報告書（3）

I 調査の概要

1 調査の目的と概要

本市では市内全域を対象とする広域分布調査事業を随時実施し、これまで274箇所の遺跡を把握しているが、未調査地域も多く残されている現状である。また、発見が古く、容易に立ち入ることのできない山間部の古墳群等、情報が少ない遺跡も存在するため、新規遺跡の把握と既存遺跡の再確認を目的とする分布調査を実施した。

また、近年の経済状況の変化により、遺跡が存在する地域にも開発を進める傾向が増加しており、各種開発との調整を図り遺跡の保護を図るため、試掘調査及び立会調査を実施した。

平成27年1月から3月までの開発行為に伴う遺跡所在の有無に関する照会は計19件であった。試掘調査は1件、工事立会は6件である。試掘調査は、埋蔵文化財包蔵地内で極力実施することとし包蔵地隣接地も実施に努めた。工事立会は、工期に余裕がない場合や工事面積が狭い場合、埋蔵文化財を破壊する恐れが少ないと判断された場合、遺跡隣接地等の遺跡未確認地の場合に実施した。積雪期に吹雪や豪雪の中での立会調査もあり、積雪期の調査方法は今後の課題である。

2 調査方法

(1) 踏査及び分布調査

踏査は、開発事業計画地の範囲内及びその周辺の踏査を行い、遺跡の範囲と開発予定区域の平面的な関係を確認する調査である。分布調査は、主に遺跡台帳整備のための踏査である。いずれも事前・事後に周知の資料により、地形状況や従来報告等の内容を確認している。GPS付のカメラやスマートフォンを活用し、簡易な位置情報を記録しながら踏査した。

(2) 試掘調査

試掘調査は、坪掘りやトレンチ調査を行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や遺構確認面までの深さ等を把握し、遺跡内容の把握を行う調査である。開発予定地内にグリットを設定し、試掘溝又は試掘穴を配して人力で表土及び堆積土を除去し、遺構の有無を確認した。

(3) 立会調査

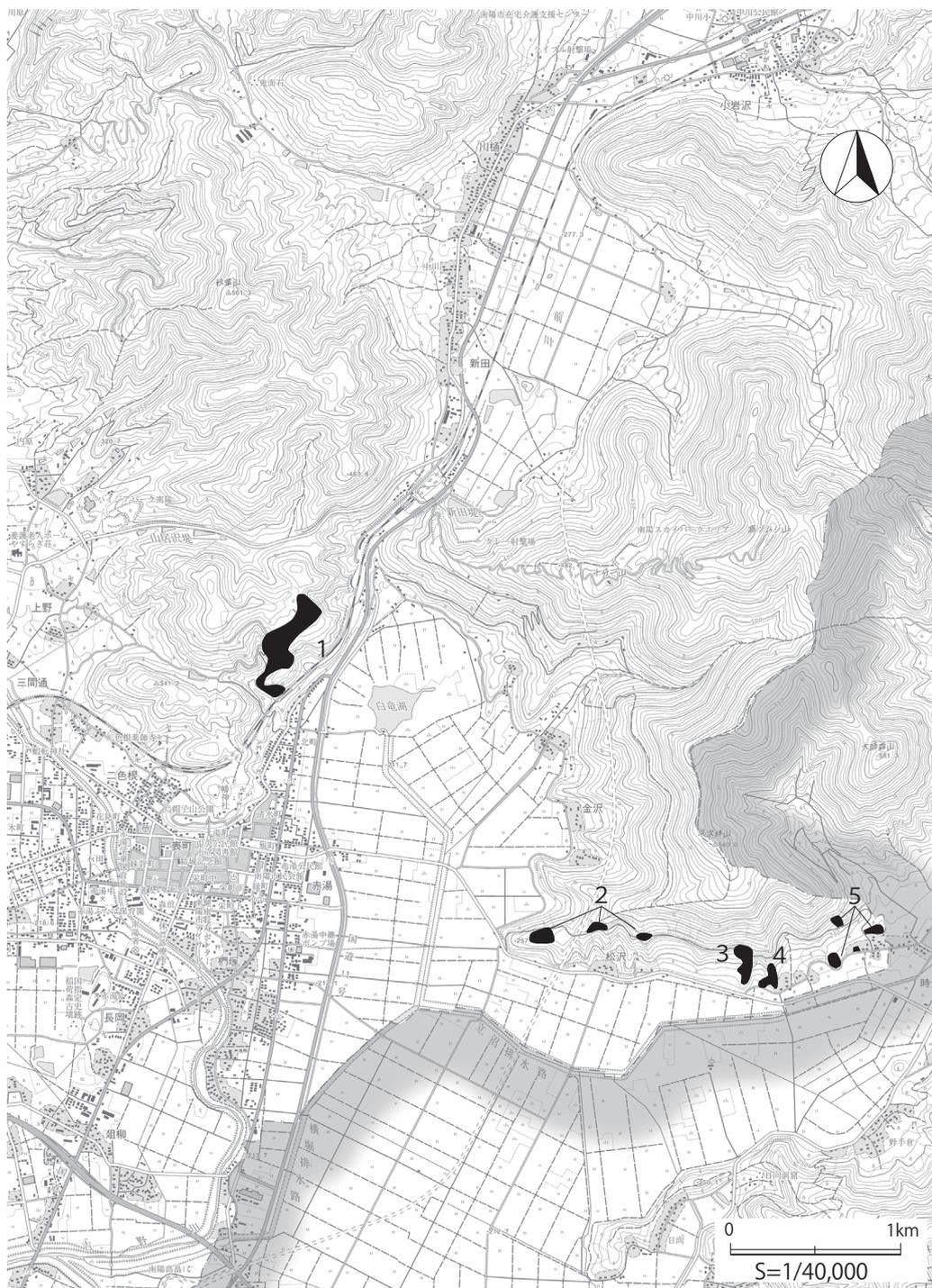
立会調査は、基本的に開発事業による遺跡への影響が軽微な場合に、工事施工に立ち会って実施し、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う調査である。工事の進捗にあわせ、土工事を行う際に立ち会いを行い、遺構・遺物の確認及び土層の確認を行った。掘削深度は工事の掘底面である。遺跡未確認地の場合もできるだけ工事の立ち会いを行い遺跡の把握に努めた。

3 調査位置図



- | | |
|------------------|-----------|
| 1 字大沢二～字夷平山 | 8 沢田遺跡 |
| 2 松沢 (字松沢山、横穴) | 9 浦生田館跡 |
| 3 松沢 (字赤石山) | 10 宮内字田町 |
| 4 松沢 (字山神前一) | 11 富塚遺跡隣地 |
| 5 松沢 (字段前一、字宮原前) | 12 桜田遺跡 |
| 6 西原遺跡 | 13 清水上遺跡 |
| 7 治兵衛壇遺跡 | 14 柳町遺跡 |

第1図 調査位置図(1) S=1/40000



第2図 調査位置図(2) S=1/40000

埋蔵文化財分布・試掘・立会調査実施一覧

地区	事業種別	月日	遺跡名	調査箇所	区分	調査概要
赤湯	分布調査	平成 27 年 3 月 30 日	夷平遺跡	赤湯北町	踏査	地表面遺物確認できず。遺跡範囲内に戦中の防空壕有
	分布調査	平成 27 年 3 月 30 日	二色根古墳群、二色根館跡	二色根	踏査	昨年確認した F 地点再確認、二色根館跡東郭の現況確認
	分布調査	平成 27 年 3 月 30 日	上野山古墳群	赤湯字大沢山	踏査	15 号墳を新規確認
	分布調査	平成 27 年 4 月 2 日	二色根古墳群	二色根	踏査	4 号墳の位置の再調査
	分布調査	平成 27 年 4 月 2 日	上野山古墳群	赤湯字大沢山、字北ノ沢山	踏査	大きな石の散乱地点有
	分布調査	平成 27 年 4 月 6 日～9 日	松沢山横穴	松沢字松沢山、字赤石山等	踏査	横穴の概寸計測。横穴墓の可能性も有
	分布調査	平成 27 年 4 月 8 日	未確認	松沢・宮原地区	踏査	なし。庚申塔等を確認
	分布調査	平成 27 年 4 月 8 日	七両坂古墳等	赤湯字十分一山一	踏査	古墳の現状確認
沖郷	道路整備	平成 27 年 2 月 4 日～27 日	蒲生田館跡	蒲生田字大田、字町屋敷	立会調査	溝跡等を確認
	民間開発	平成 27 年 2 月 16 日	富塚遺跡	高梨字富塚	立会調査	なし
	民間開発	平成 27 年 3 月 20 日	清水上遺跡	蒲生田字清水上	立会調査	柱穴等を確認。土師器片出土
	分布調査	平成 27 年 4 月 7 日	中屋敷遺跡	若狭郷屋字中屋敷	踏査	石祠のある小マウンド有。
	民間開発	平成 27 年 4 月 7 日	沢田遺跡	若狭郷屋字樋越(字玉ノ木)	試掘調査	耕作土から縄文土器片。遺構なし。
梨郷	分布調査	平成 27 年 4 月 6 日	治兵衛壇遺跡	梨郷字七間地	踏査	通称「治兵衛壇(東車塚)」、須恵器片、新規遺跡
	分布調査	平成 27 年 4 月 6 日	梨郷上館跡	梨郷字芹の窪、字上町付近	踏査	館の南端付近を確認
宮内	道路整備	平成 27 年 2 月 16 日～4 月 14 日	未確認	宮内田町	立会調査	近代の道路面に須恵器片 1 点と近世陶器・近世窯道具多数
	道路整備	平成 27 年 2 月 20 日～3 月 31 日	桜田遺跡	宮内字桜田一、桜田二	立会調査	溝、ピット等を確認。土師器片。新規遺跡
	民間開発	平成 27 年 3 月 23 日～24 日	柳町遺跡	宮内字柳町一	立会調査	溝、ピット等を確認。遺物なし。新規遺跡
	分布調査	平成 27 年 3 月 30 日	熊野大社敷地内遺跡	宮内字坂町、熊野山南斜面	踏査	地形確認
漆山	民間開発	平成 27 年 4 月 6 日	西原遺跡	池黒字西原	踏査	須恵器片表採、新規遺跡

調査者 角田朋行 鈴木輝生

II 遺跡台帳・遺跡地図整備に係る分布調査（踏査）

1 ^{わのやま}上野山古墳群

(1) 調査日 平成 27 年 3 月 30 日、4 月 2 日

(2) 調査場所 南陽市赤湯字大沢山、字北ノ沢山、字夷平山（通称「上野山」の東斜面）

(3) 調査目的

上野山古墳群は昭和 20 年頃に発見された奈良時代の墳墓群（終末期古墳群）であるが古墳数や位置に曖昧な点があることから古墳数及び位置を確認するため踏査を行った。

(4) 調査方法及び内容

GPS 機能付カメラ及び GPS 機能付スマートフォンにより簡易位置情報付の写真撮影を行いながら踏査した。調査範囲は上野山東斜面とし、字大沢山の旧道沿いの荒廃園地及び旧道より上部の葡萄園及び荒廃園地（字大沢山の中腹から字北ノ沢山）と字夷平山とする。

(5) 調査結果

①字大沢山の旧道沿いの南斜面について（上野山古墳群大沢山支群）

昭和 28 年の山形県の古墳や東置賜郡史では、字大沢山には大沢山古墳群、長峰山古墳群と呼ばれた古墳群があったことが知られている。これら古墳群は早くに開墾によって失われたものが多く、位置等が不明確なままに上野山古墳群に統合された経過がある。これまで現行農道沿い（標高の高い範囲）に踏査を実施してきたが今回は旧道沿い（中腹付近）の踏査を実施した。さらに既存資料の調査で、大沢山古墳群の 4 基の古墳の略位置を示した昭和 42 年作成の地図があることを新たに確認した。

15 号墳 旧道沿いの南斜面の荒廃園地で、古墳の石室（玄室）の残存と思われる石組みを確認した。上野山 15 号墳とする。石室上部は失われ、奥壁と側壁の一部が残存している状況とみられ、玄室の方位は概ね南に向いている。墳丘の形状は不明である。横穴式石室の奥壁の石の幅約 70cm、玄室内の幅（内寸）約 75cm、現況の玄室残存長（外寸）は、約 243cm、側石の外寸幅は約 135cm である。玄室の側石は最下部のみ残存すると思われる、西側に 3 個、東側に 2 個残る。袖石や羨道部分は残存していないと思われる。形状や規模等からおそらく奈良時代の墳墓（終末期古墳）と考えられる。道路向かいの農作業小屋の土台に多くの石材がみられ、古墳の石材を再利用している可能性が高い。また、15 号墳の上方斜面には奥壁状の立石が 2 か所残存している。字大沢山に所在し、位置的に周知の 1～14 号墳と離れていることから、谷を挟んで東側の古墳を大沢山支群とする。

15 号墳略位置	緯度 38° 03'34.000	経度 140° 10'16.059	高度 293.9m
----------	------------------	-------------------	-----------

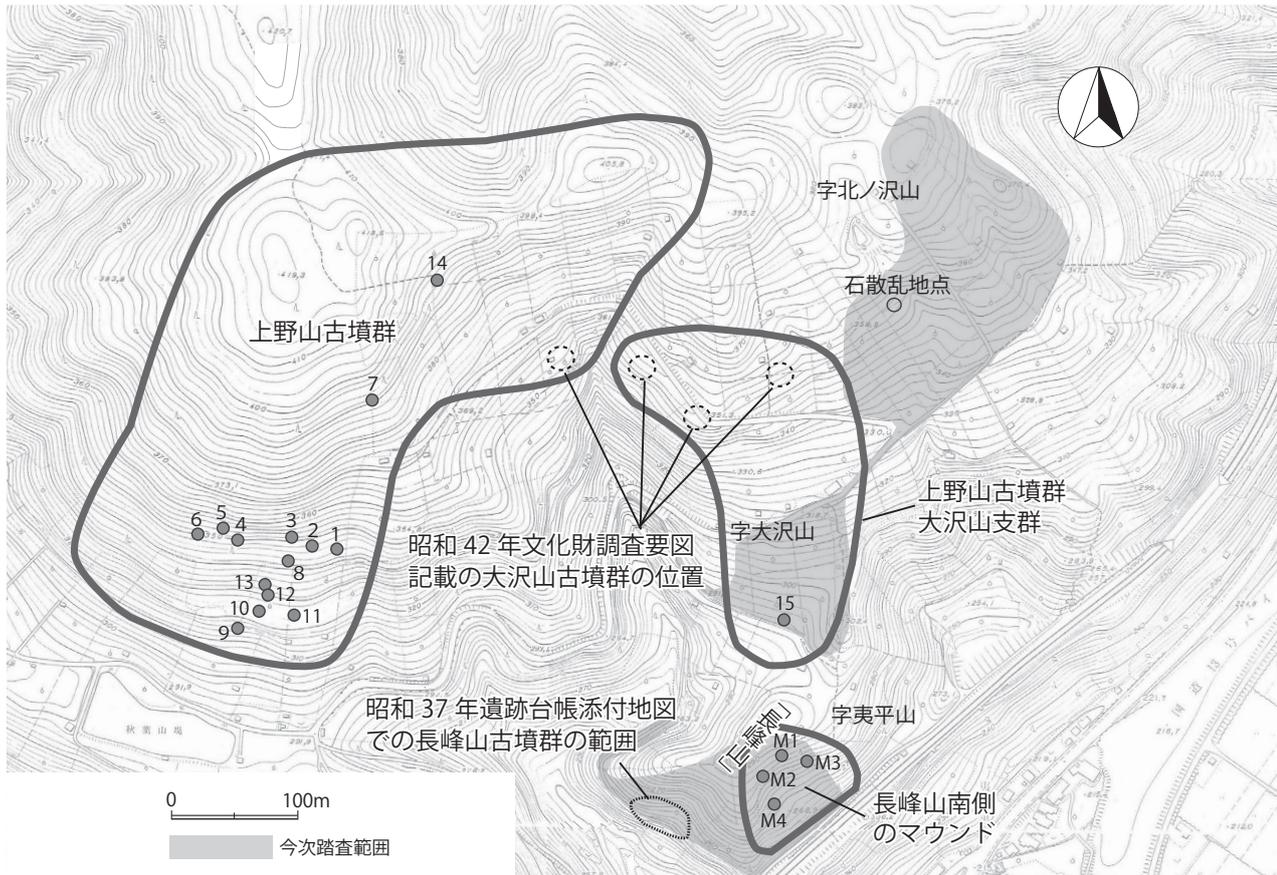
②字大沢山～字北ノ沢山の東斜面について

現農道上位にあたる東側斜面を北側の谷の縁まで踏査した後、谷の縁沿いに尾根まで登り、字北ノ沢山の斜面を下りながら踏査した。字北ノ沢山の山頂付近は平坦面が存在するが、残雪が多く踏査できなかったため概況地形の把握と写真撮影のみにとどめた。字大沢山に比べ、字北ノ沢山の斜面には石材は少ないが、字大沢山に近い東斜面に大きな石材が散乱している地点がある。この地点にのみ石が集中している状況から、これら大石が古墳の構造材であった可能性もあろう。

③字夷平山の東斜面について

昭和 37 年遺跡台帳に長峰山古墳の範囲を記した地図があることから、その範囲を踏査

した。位置は字大沢山で通称「長峰山」の大沢に面した南斜面である。一部石材が散見されるが急斜面で古墳は確認できなかった。続いて尾根頂まで上りそこから「長峰山」の東斜面（字夷平山）を踏査したところ、山腹東側の凹状緩斜面にマウンド状の隆起地形を4ヶ所確認した。確認順にマウンド1～4とする。M1は現況で直径約8mその他はM1よりやや小さい。M1以外はやや崩れているが石室等の石材は確認できない。マウンドは山側の切り離しが曖昧で遺物も表採できなかったが、古墳の可能性はある。赤湯町史には「北町のえぞ平というところにも古墳があった」という記載があることから今後も継続調査を要する。



第3図 上野山古墳群位置図 S=1/6000

2 松沢地区

(1) 調査日 平成27年4月6日～4月9日

(2) 調査場所 南陽市松沢（字松沢山、字赤石山、字山神前一、字古沢、字段前一、字宮原前）

(3) 調査目的

松沢古墳群は2基が市指定文化財に指定されているが、松沢地区内にはこの他にも古墳があったと言われており、古墳数や位置が不明であることから、遺跡台帳整備のため昨年度に引き続き古墳数及び位置等を確認するため踏査を行った。

(4) 調査方法及び内容

GPS機能付スマートフォンにより簡易位置情報付の写真撮影を行いながら、不明古墳を確認するため踏査する。

(5) 調査結果

①字松沢山～字赤石山（松沢山横穴）

松沢山西端の尾根上を踏査した。大きな石が点在するが明確なマウンドや古墳等は確認できなかった。果樹園跡に石を穿って水桶にしたとみられる大きな石が残っている。

平成5年に確認されている字松沢山の農道沿いにある石を穿った横穴は、横穴墓の可能性もあることから概寸を計測した。入口は横幅（内寸）約155cm×現況の高さ約35cm、奥行き290～300cm、奥壁の幅約310cm、天井はややドーム型を成し高さは約175cmである。入口から石と土砂が流れ込んで堆積し、床面は見えない。天井や側壁には工具の使用痕が明瞭に見られる。横穴墓の場合、羨道にあたる部分は農道工事により失われている可能性がある。松沢から宮原地区にかけては、葡萄園等の物置等としていくつかの横穴を利用していたと言われている。横穴墓は群集することが多いことから、付近に未発見の横穴が埋没している可能性もある。遺跡名は「松沢山横穴」としておく。

横穴から東へ進んだ農道沿いの斜面で、露出している岩が重なって穴状に見える箇所を2箇所確認したが、単に崩れた岩が埋没している状況である可能性が高い。

松沢山横穴 略位置	緯度 38° 2'42.890	経度 140° 11'32.409	高度 309.668m
-----------	-----------------	-------------------	-------------

②字赤石山

松沢古墳群のある谷状地形の東端部の山腹より下位の斜面（字赤石山～字赤石前付近）について踏査を行った。斜面には巨石があちこちに散在しているが葡萄園で開墾され、現状で古墳と判断できる箇所はなく、東端尾根でも確認できなかった。

③字山神前一

字山神前一の農道からその東の尾根頂まで踏査した。農道脇には山ノ神の石祠があるが倒壊している。尾根頂は平坦になっており新しい石造地蔵がある。周辺には小型の礎石が残っていることから以前は小さなお堂があったものと思われる。地蔵尊のある尾根先端は円形で山側の尾根は窪んでいるが、谷側に傾斜変換点や明確なテラス帯などが無いことから現状では古墳や城館址等の遺構ではないと思われる。

④字段前～字宮原前

字段前西側の尾根を踏査した。尾根上には庚申塔が1基建っており、傍らに文化四年と刻まれた石碑が倒れている。字段前東側には墓地があり、巳待塔、庚申塔、湯殿山碑等の石碑が見られる。宮原の八幡神社境内を踏査後、農道を登り西へ進みながら周辺を確認したが、周辺に古墳や横穴墓等は確認できなかった。



第4図 松沢地区踏査範囲図 S=1/15000

3 西原遺跡

(1) 調査日 平成27年4月6日

(2) 調査場所 南陽市池黒字西原

(3) 調査目的

遺跡分布調査未実施地区につき、遺跡台帳整備のため地表面踏査を実施する。

(4) 調査方法及び内容

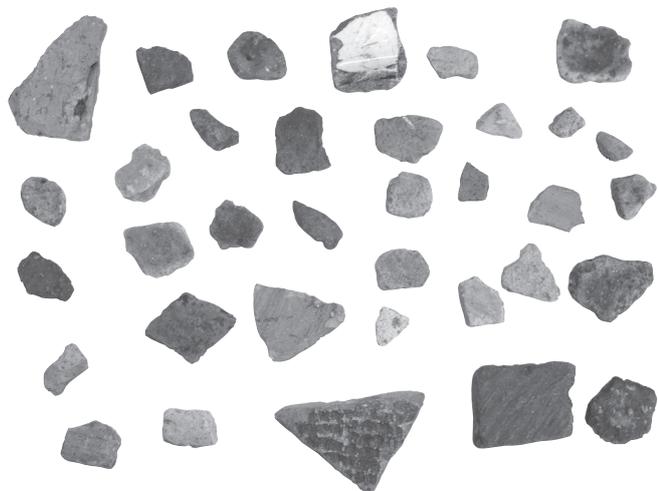
写真撮影を行いながら踏査する。

(5) 調査結果

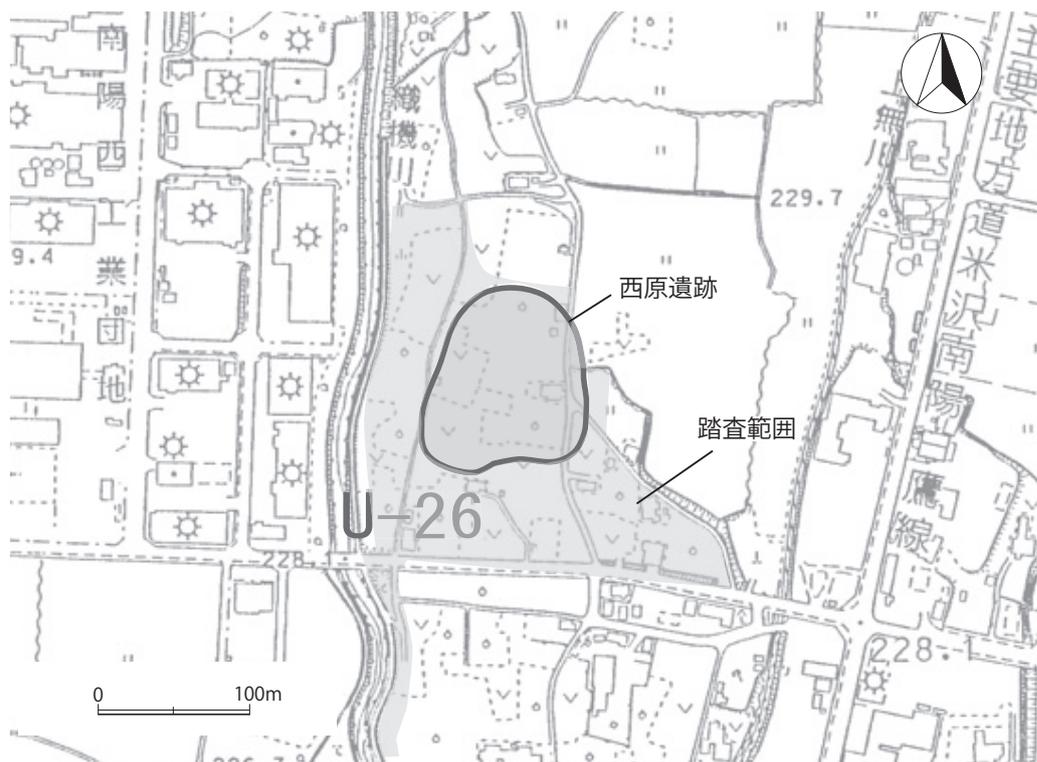
現況は、果樹園、畑地、荒地である。調査地西端を織機川が南流しているが、堤防の外側にも低平な荒地が南北に続いている。この低地は堤防整備前には織機川の河川敷であったと思われる。

字西原の畑地を中心とする地表面踏査により遺物の散布を確認した。遺物は、平安時代と思われる土師器片及び須恵器片である。遺物の散布状況から、遺跡は織機川左岸の北に伸びる自然堤防上の微高地を中心広がっているとみられる。

畑地の地権者の話によれば、微高地は桑畑から果樹園や畑地に移り変わってきたといい、織機川沿いの低平地部分には、流行り病で亡くなった人の焼き場があったとの言い伝えがある。新規遺跡である。



西原遺跡表採土器



4 治兵衛壇遺跡

- (1) 調査日 平成27年4月6日
- (2) 調査場所 南陽市梨郷字七間地二
- (3) 調査目的

遺跡分布調査未実施地区につき、遺跡台帳整備のため地表面踏査を実施する。

- (4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。

- (5) 調査結果

現状は、果樹園、畑地、荒地である。土平川による扇状地状の地形で、南向きの緩斜面となっている。かつてこの場所に治兵衛壇（東車塚）と呼ばれた塚があり、塚の上には、現在県指定文化財に指定されている正元元年大日板碑が建っていたと言われている（板碑は現在梨郷神社の南へ移設）。東車塚という名称からは古墳や経塚等があった可能性もあるが、現況では多少は地形の起伏があるものの明確な高塚状の地形はみられない。地表面踏査により遺物の散布を確認した。表採遺物は、土師器片及び須恵器片である。新規遺跡である。地形的に道路北側の畑地にも範囲が広がっている可能性があるが、今回は踏査できなかった



治兵衛遺跡表採土器



第6図 治兵衛壇遺跡位置図 S=1/5000

Ⅲ 試掘調査

1 沢田遺跡

- (1) 調査日 平成 27 年 4 月 6 日、7 日
- (2) 調査場所 南陽市若狭郷屋字樋越（字玉ノ木）60
調査対象地（工事）面積 2,381m²
- (3) 調査原因 民間開発（93 条）
- (4) 調査方法及び内容

当該地は周知の沢田遺跡内である。平成 3 年度にも市教育委員会が対象地の一部を試掘しているが遺構・遺物は未検出であった。遺跡の状況把握のため試掘調査を行うものとした。調査対象範囲 2,381m²について 20 mメッシュを配し、平成 3 年度調査地点と重複しないように幅 1 m×長 1 mの試掘穴 4 か所を設定のうえ、手掘りで試掘調査を実施し、記録後に埋め戻しを行った。

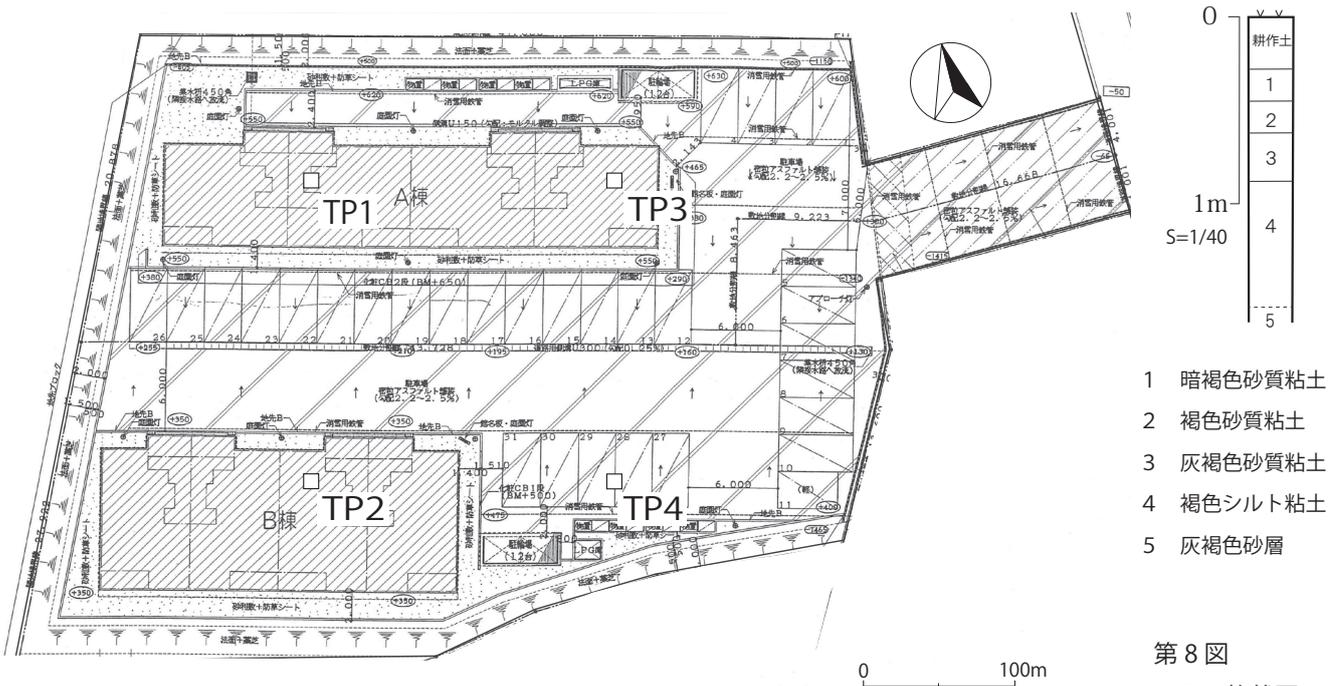
(5) 結果

土層の確認と遺構・遺物の確認を行った。土層は 4 地点とも同じである。遺物は T P 2 において耕作土下の旧表土層から縄文土器片が出土した。遺構は検出されなかった。

(6) 考察

調査地は、南陽市若狭郷屋字玉ノ木に位置し、現況は果樹園である。字名は近年整理統合されたもので明治 8 年字限図では字樋越となっている。周知の沢田遺跡の範囲内で吉野川の旧河道左岸にあたる。すぐ西隣に長堤跡と丸堤が位置し、微地形観察から今次調査対象地は、旧吉野川から枝分かれして東南方向に流れる小河川の流路（旧河道）にあたりとみられ、周辺に比べ一段低い土地になっている。

T P 2 から縄文時代中期の縄文土器片が出土したが、土層観察から土器は流れ込みによるものと思われ、全ての箇所では遺構は確認できなかった。



第 7 図 沢田遺跡試掘位置図 S=1/5000

IV 立会調査

1 蒲生田館跡^{かもうだ}

- (1) 調査日 平成27年2月4日～2月24日
- (2) 調査場所 南陽市蒲生田字大田1887-2地先、字町屋敷1887-1地先
調査対象地（工事）面積102㎡
- (3) 調査原因 市道整備事業
- (4) 調査方法及び内容

当該地は、周知の蒲生田館跡の範囲にかかることから、調査対象地の工事に際し、掘削状況を確認し、遺構・遺物の有無の確認と地質の確認を行った。工事は、既設水路の明渠^{めいきよ}を蓋付のU字溝に交換し、歩道を新設するもので、新たな掘削（拡幅）は限定的であった。

(5) 結果

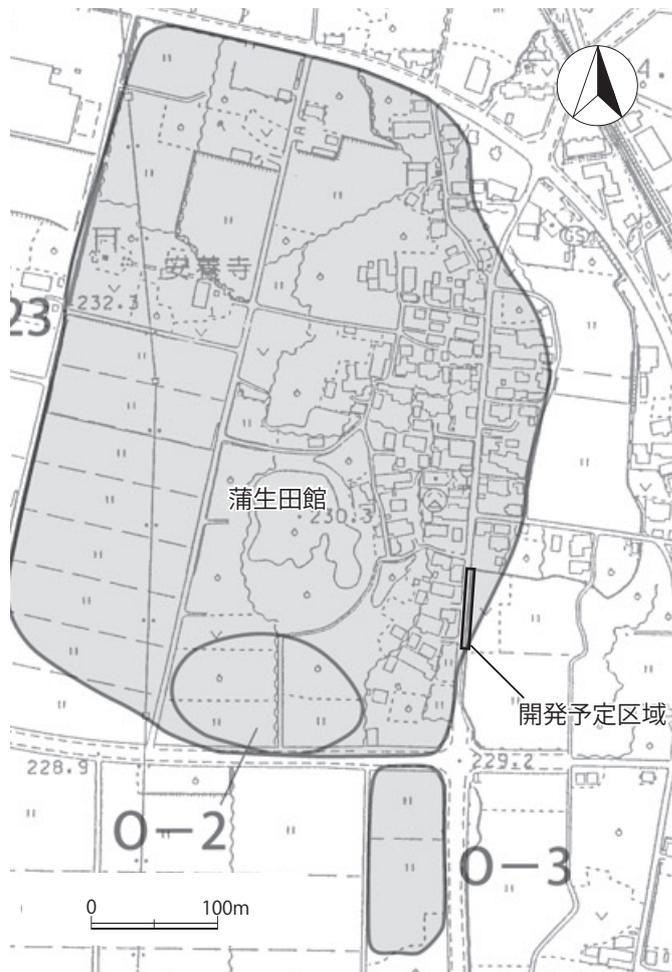
掘削断面の観察から溝跡を4本検出した。遺物の出土はなかった。土層は、水田面（第1層）、水田盤土（第2層）、明褐色砂質粘土層（第3層）までは耕地整理による整地層と判断されたことから記録は省略した。第4層（第10図第1層）に灰色味の強いオリブ褐色粘土層、以下に河川跡と見られる堆積層となる。溝跡はこの第4層で検出された。

(6) 考察

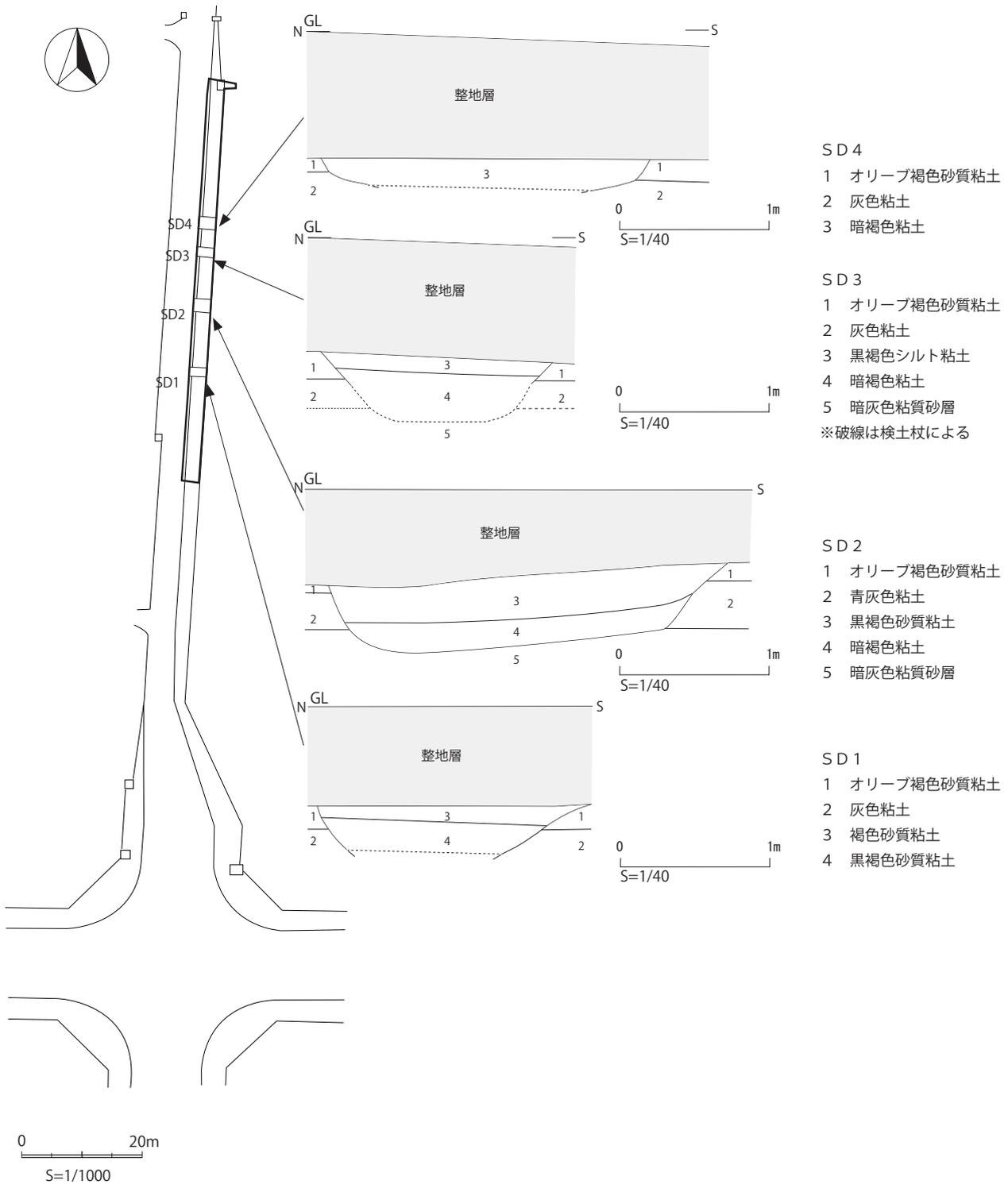
今次調査地は、南陽市蒲生田字大田、字町屋敷に位置し、現況は市道蒲生田本線の用水路兼道路側溝である。当該地は、旧吉野川の右岸の川べりにあたり、すぐ西側の自然堤防上に蒲生田館が築城されている。

溝跡の検出された第4層の粘土層は、近隣の清水上遺跡や唐越遺跡の発掘調査では主に平安時代の遺構面となっている層である。この地域は沖郷条里制の範囲内であり、今次検出の東西方向の4本の溝跡は、条里制に関連する可能性もあろう。溝跡は、断面形状からは比較的幅が狭く深いSD1とSD3、幅が2m以上と広く浅いSD2とSD4の2種類に分類できる。いずれも遺物が未検出であるため年代の特定はできない。

土層は、第3層以上が耕地整理で削平盛土されていると考えられることから、遺物の包含層及び遺構上部は既に失われている状況と考えられる。



第9図 蒲生田館跡開発予定位置図 S=1/6000



第 10 図 蒲生田館跡平面・断面図

2 宮内字田町（市道鏡田線）

- (1) 調査日 平成27年2月20日～4月14日
- (2) 調査場所 南陽市宮内字田町二（市道鏡田線内）
- (3) 調査原因 市道整備事業
- (4) 調査方法及び内容

当該地は遺跡未確認地であることから、土工事の際に遺構・遺物の有無の確認及び記録を行うこととした。工事は、既設水路を除去し大型のU字溝を設置するものである。掘削の深さは現行水路の設置面であり新たな深掘りはない。幅員の掘削は、東壁は民家の石垣をそのまま残してU字溝と石垣の間を山砂で充填し、西側の道路側を30～50cm程度拡幅して掘削するものである。調査にあたっては、掘底面は旧水路の捨コンクリート及び敷き砂利層であるため、平面での遺構確認はできず、道路側の壁の断面観察にとどまった。

(5) 結果

第2層の暗褐色砂質粘土層の上面から多量の近世陶器片と近世窯道具片が出土した。さらに近世の平瓦の破片が1点出土した。

遺構は確認できなかったが、土層等から、現状の水路や道路となる以前から小川等が流れていたものと思われる。

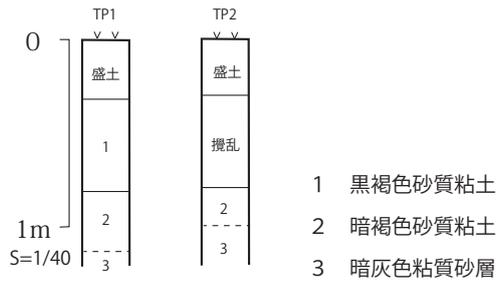
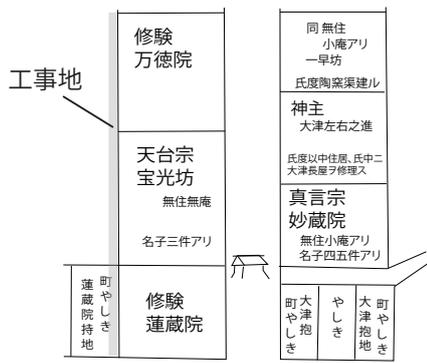
(6) 考察

今次調査地は、菖蒲沢から流れ出る宮沢川が形成した扇状地の緩斜面にあたり、宮内の市街地内で熊野門前通りの裏道にあたる市道である。元和九年町割図では法道坊の西側の境に位置し、畑地と記されている。基本層序は、地表面から約30cmまでは道路盛土層で、その下に黒褐色砂質粘土層（第1層）、暗褐色砂質粘土層（第2層）、暗灰色粘質砂層（第3層）と堆積する。第2層上面に多量の窯道具の混入がみられた。第2層は土質が柔らかく砂利や礫石が混じる。第3層はさらに多くの礫石が混じる。これらの土層観察からは、古い小川又は水路の上に重なる形で現水路と市道が整備されており、現道下には改修前の古い道路があるものと思われる。TP2では盛土層下の攪乱層に土管の埋設が見られる。

出土遺物は窯道具と近世陶器である。窯道具は、ハマ（5）、桔梗台（6～9）、ドーナツ状焼き台（10）、「鬼の角」（13～15）と呼ばれる重ね焼きに使用する土製品があり、窯壁とみられる焼けた粘土塊も混じっている。近世陶器では、成島系のすり鉢（3）、染付のある陶器、甕、瓦（11）等である。

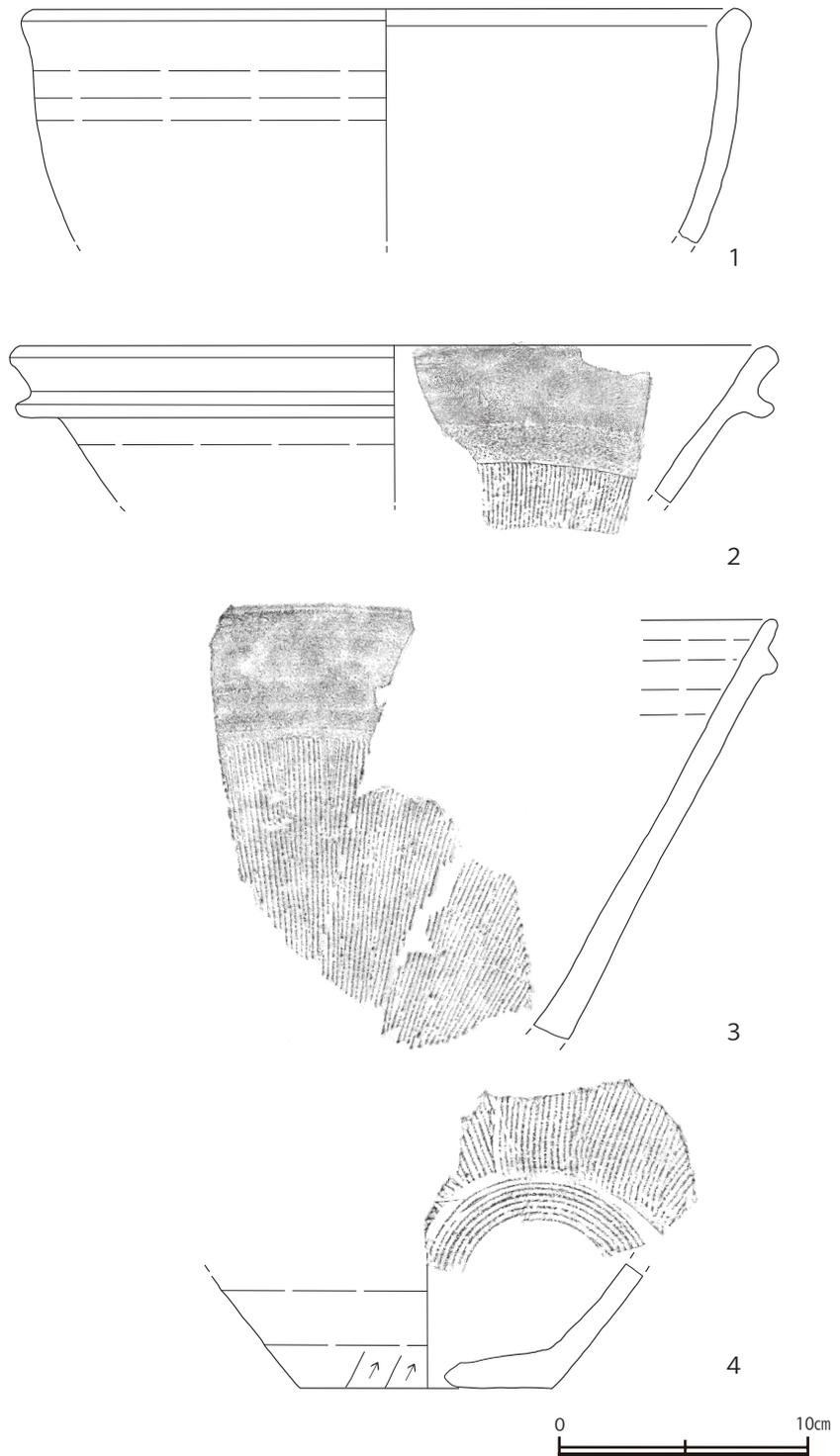
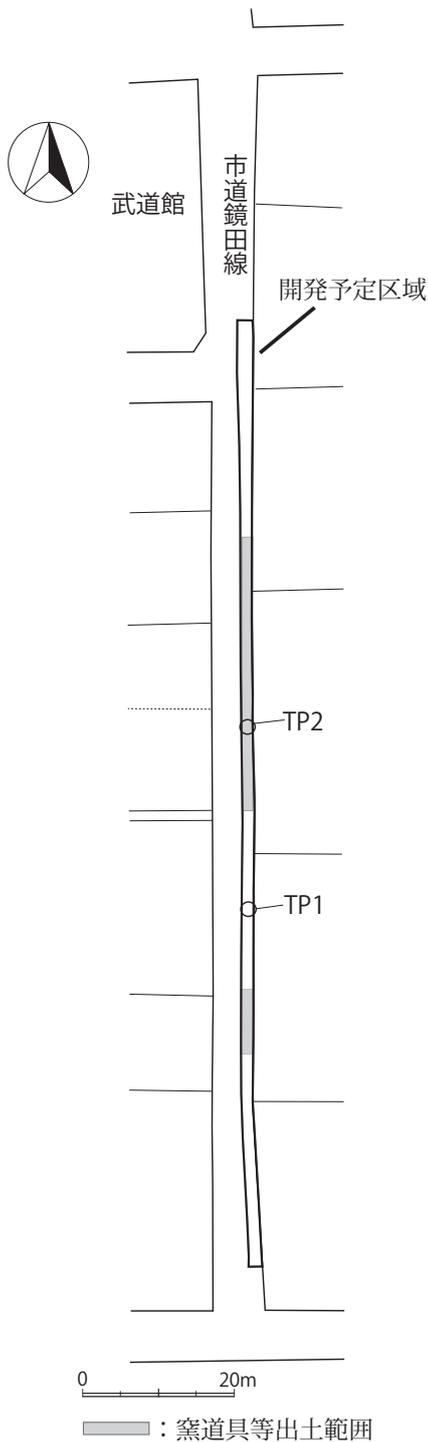
宮内には菖蒲沢焼等の近世窯があったことが知られている。菖蒲沢焼は調査地から北へ約320mに位置し、戊辰戦争の際に窯が破壊され明治初年閉窯とされている。また、これまでの古文書研究等により宮内に平賀源内の弟子と思われる人物（志度以中）が訪れ、志度焼を伝えた可能性があり（南陽市史編纂資料集第7号）、米沢市立図書館蔵の寛政八年～文化六年頃の宮内町図面には今次調査地東方の敷地に「氏度陶窯渠建ル」とあるなど、宮内は近世に多様な焼き物が行われた窯業地であったと考えられる。

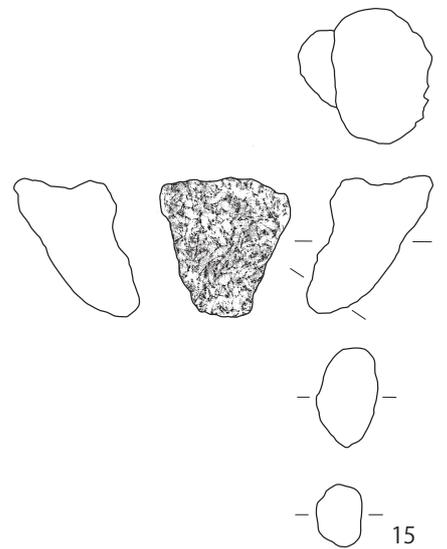
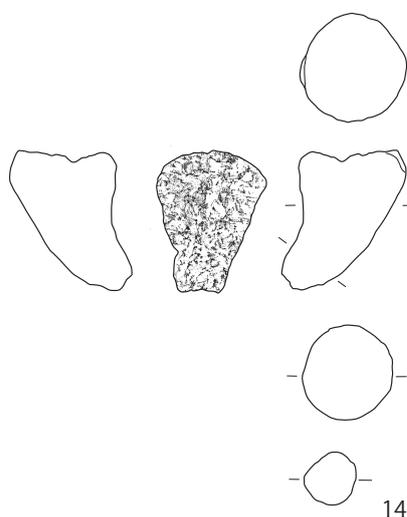
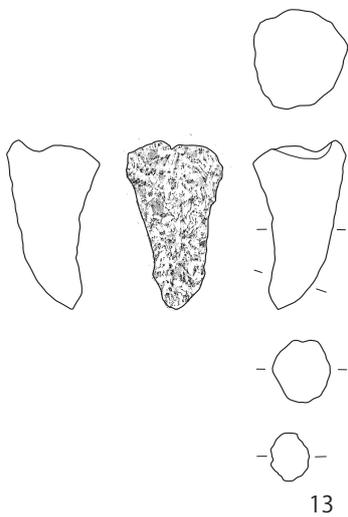
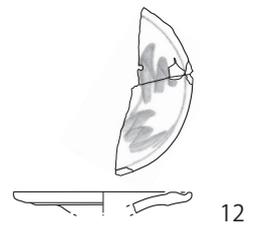
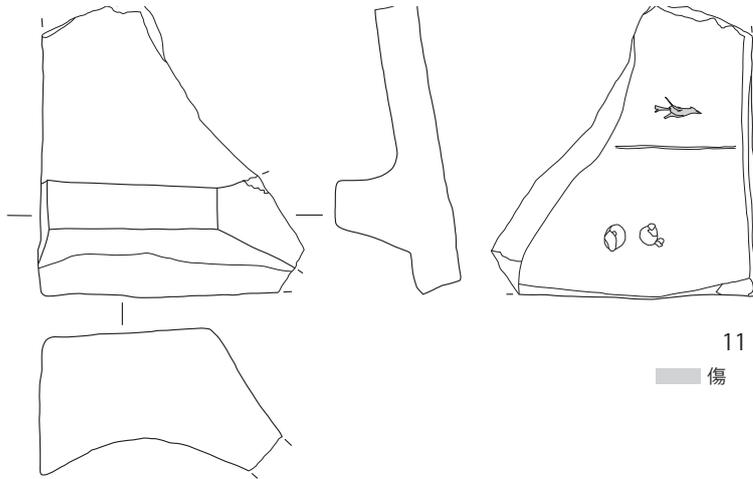
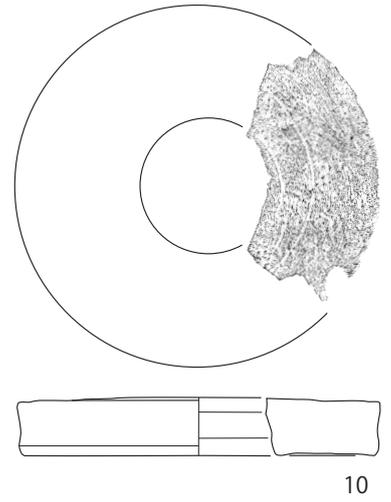
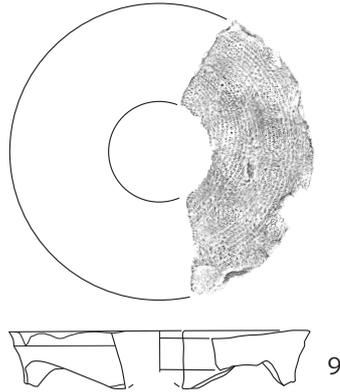
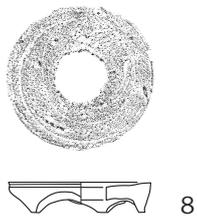
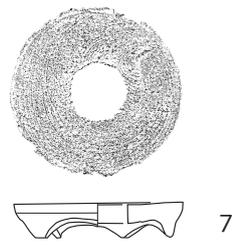
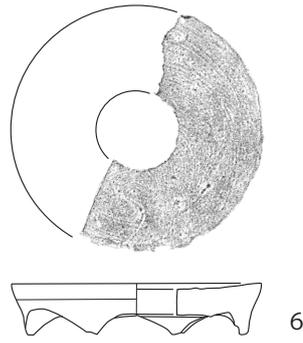
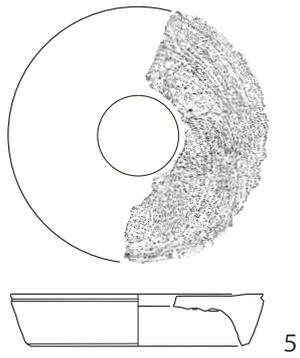
今次の近世窯関連遺物の出土地点は、町中の平坦地であり登り窯があったとは考えにくい立地環境である。窯壁片を含む窯道具等が柔らかい地層上面に集中して検出されていることや土層観察から出土地が道路として改修を重ねてきたとみられることなどから、道路舗装の資材として、廃棄された窯壁片や窯道具を再利用した可能性も考えられる。



第12図 TP1、TP2 柱状図

寛政八年～文化六年頃の宮内町(抜粋)





第14図 市道鏡田線出土遺物実測図(2) S=1/3

3 富塚遺跡隣地（高梨字富塚）

(1) 調査日 平成 27 年 2 月 16 日～ 25 日

(2) 調査場所 南陽市高梨字富塚

(3) 調査原因 民間開発

(4) 調査方法及び内容

当該地は、周知の富塚遺跡の隣地であり遺跡未確認地であることから遺構・遺物の有無の確認と地質の確認を行った。工事は個人住宅の建築で、浄化槽設置工事の際に立会いを実施した。トレンチは幅 2.5 m×長 3 m である。

(5) 結果

遺構・遺物の出土はなかった。地表面から約 108cm までは厚い盛土層でその下に旧耕作土が検出された。沖郷地区における従来の調査で古墳時代～平安時代の遺構面となる褐色粘土層が地表から約 145cm 下において確認される。

(6) 考察

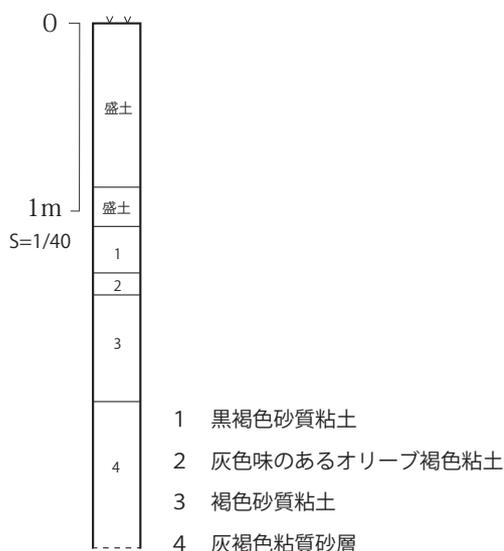
今次調査地は、南陽市高梨字富塚に位置し現況は宅地である。当該地は、旧吉野川の左岸の自然堤防の東端にあたり、地形的に自然堤防と後背湿地の境である。周辺地形と土層断面の観察から西側の自然堤防が調査地点付近で急に落ち込むことがわかる。

遺構・遺物の出土は無く、遺跡範囲の変更はない。

富塚遺跡では今次調査地から約 200m 南々西の畑から平成元年に古墳時代の土師器壺が出土している。調査地から 1 km 北にあたる旧吉野川右岸の自然堤防上には 15 基の古墳又は方形周溝墓が発掘された大塚遺跡がある。明治 8 年字限図「富塚」では、土師器壺出土地点北側に方形状の塚と見られる地割りが存在していることや、字名からすれば、富塚遺跡には大塚遺跡と同様の古墳が存在した可能性があろう。



第 15 図 富塚遺跡隣地位置図 S=1/5000



第 16 図 富塚遺跡隣地 TT1 柱状図

4 桜田遺跡

(1) 調査日 平成 27 年 2 月 20 日～ 3 月 31 日

(2) 調査場所 南陽市宮内字桜田一、桜田二

(3) 調査原因 市道整備事業

(4) 調査方法及び内容

当該工事地は、遺跡未確認地である。周辺一帯は耕地整理により水田地帯となっているが、水田下に吉野川の埋没自然堤防が広がると予想されており、遺跡が存在する可能性があるため、事前協議のうえ工事の際に掘削状況を確認し、遺構・遺物の有無の確認と地質の確認を行った。工事は現道両側の用水路入れ替えを伴う道路整備である。

(5) 結果

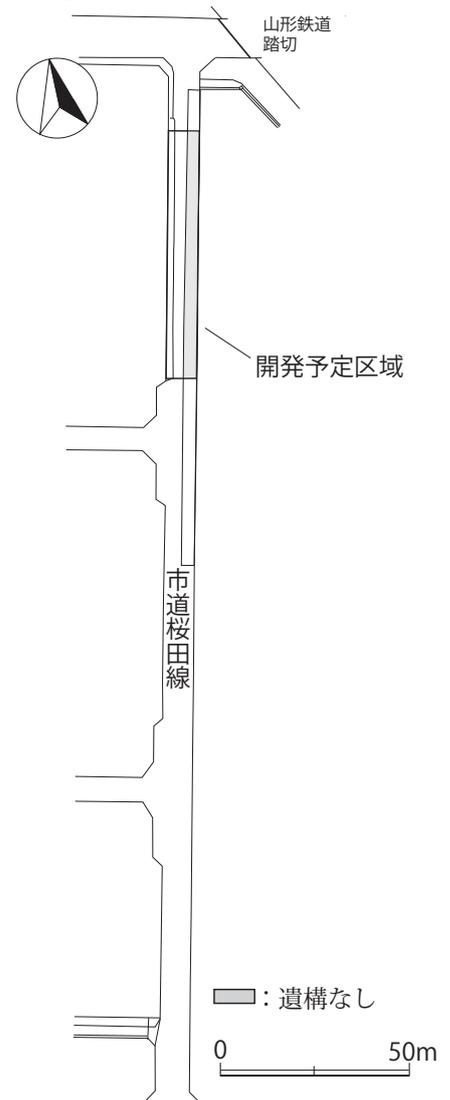
周辺踏査では遺物は確認できなかったが、工事掘削面で溝跡、柱穴等を検出した。土層は工事壁面の断面を記録し、遺構は検出状況平面図を記録するにとどめた。遺物は表土層から須恵器坏片 1 点のみである。

対象地は、耕地整理が実施された地域で、現況道路面から 80～90cm は盛土層である。遺構は、盛土層下の褐色粘土層に掘り込まれている。遺物包含層及び遺構上部は耕地整理及び以前の水路・道路工事で失われていると思われる。特に道路東側の水路は以前の工事により褐色粘土層下にある砂礫層以下まで深く掘られ遺構は既に失われたとみられる。

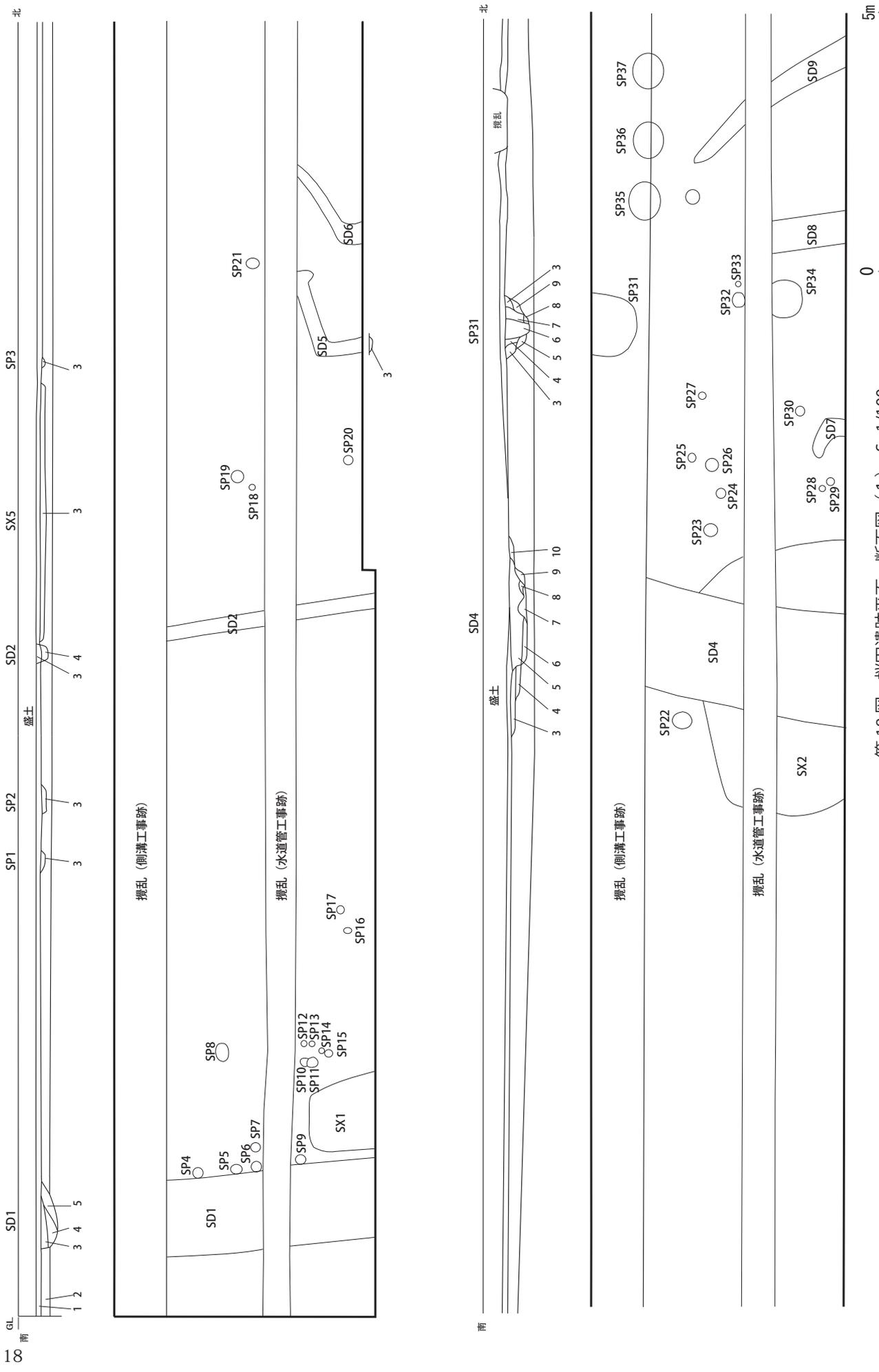
(6) 考察

今次調査地は、南陽市宮内字桜田一、字桜田二に位置し、西隣の字名は八幡前である。現況は市道桜田線及び水田である。昭和（戦後）に大規模な耕地整理が実施された地域で、広範囲に地形改変を受けている。当該地は旧吉野川の右岸にあたり、周辺の自然堤防の状況から当該地にも自然堤防が続いていたと推定される。遺構は溝跡や柱穴等であるが、遺物は表土層からの須恵器 1 点のみで、遺構に伴う遺物が確認されなかったことから、これら遺構の年代は不明である。耕地整理前や明治 8 年字限図でも宅地等の利用はみられないことから、少なくとも近世以前の遺構と思われる。下流に立地する清水上遺跡や唐越遺跡で主に平安時代の遺構面となる褐色粘土層に遺構が掘り込まれていることから、平安時代の遺跡である可能性がある。新規遺跡である。

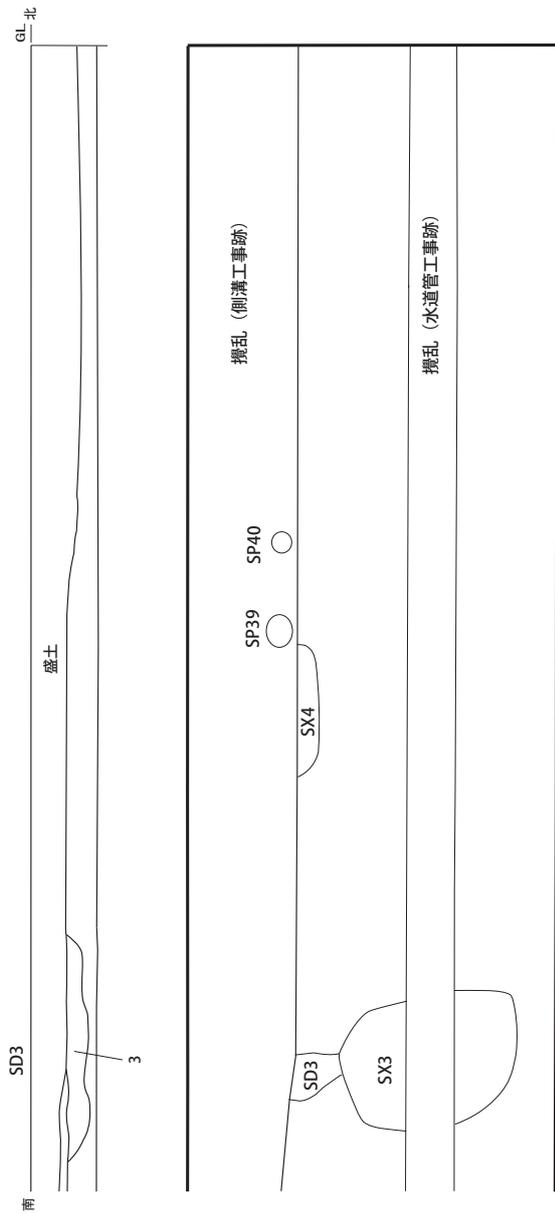
この付近一帯には条里制水田があったと推測されており、今次検出の溝跡の中に条里制に関連する溝が含まれている可能性もある。ピットや柱穴がみられ、SP31 のような大きな掘方を持つ柱穴や掘立柱建物と思われる柱列がみられることから、複数の掘立柱建物が微高地上に存在したと思われる。SD5 と SD6 は L 型を呈する溝跡であるが、小型の方形溝跡の可能性もある。



第 17 図 桜田遺跡調査位置図 S=1/2000



第18図 桜田遺跡平面・断面図(1) S=1/100



基本層序	SD 1	SD 4	SP 1	SP 3 1
1 黒褐色砂質粘土	3 灰色味のある暗褐色砂質粘土	3 黒褐色砂質粘土	3 暗褐色砂質粘土	3 黒褐色砂質粘土
2 オリーブ褐色砂質粘土	4 やや明るい暗褐色砂質粘土	4 暗褐色砂質粘土 (橙色粘土混じり)	SP 2	4 やや明るい黒褐色砂質粘土
	5 黒褐色砂質粘土	5 黒褐色砂質粘土	3 暗褐色砂質粘土	5 褐色砂質粘土
	SD 2	6 灰色味帯びる黒褐色砂質粘土	SP 3	6 黒褐色砂質粘土
	3 黒褐色砂質粘土	7 オリーブ褐色砂質粘土 (砂多い)	3 黒褐色砂質粘土	7 暗褐色砂質粘土
	SD 3	8 黒褐色砂質粘土		8 やや明るい暗褐色砂質粘土
	3 黒褐色砂質粘土	9 灰色味帯びる暗褐色砂質粘土		9 やや明るい暗褐色砂質粘土
		10 黒褐色砂質粘土	SX 5	SD 5
			3 暗褐色砂質粘土	3 暗褐色粘土

第 19 図 桜田遺跡平面・断面図 (2) S=1/100

5 清水上遺跡

- (1) 調査日 平成 27 年 3 月 2 0 日
- (2) 調査場所 南陽市蒲生田字清水上
- (3) 調査原因 民間開発
- (4) 調査方法及び内容

当該地は、周知の清水上遺跡の範囲にかかることから、調査対象地の工事に際し、遺構・遺物の有無の確認及び記録を行った。遺構については掘下げず平面記録を実施した。工事は、消防用防火水槽設置工事である。今次開発においては、店舗建築部分を緊急保存のための発掘調査を実施し、それ以外の範囲については、盛土工法による遺跡の保存を図るものであるが、深掘りを行う箇所について立会調査を実施した。

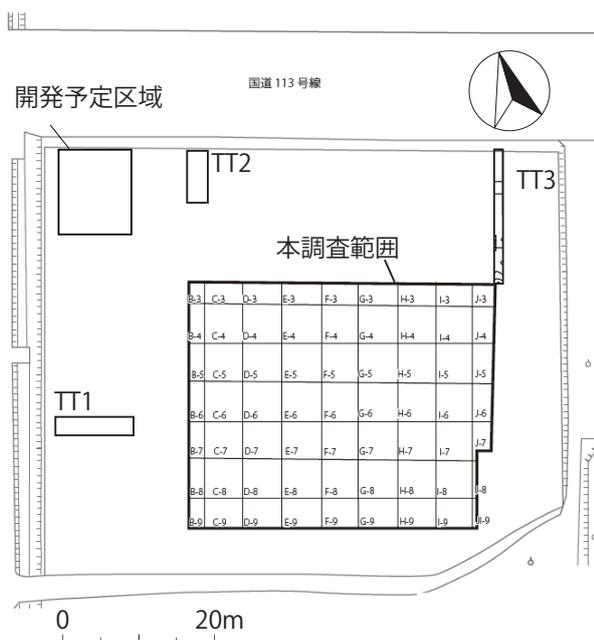
(5) 結果

防火槽工事箇所では、遺構は柱穴 8 箇所と性格不明遺構 1 箇所、現地表から約 50cm 下で検出された。遺物は土師器片である。TT1 では南北方位の溝跡やピットを検出した。TT 3 では本調査で確認した SH 2 の溝の他、柱穴 7 箇所と溝 4 箇所を検出した。

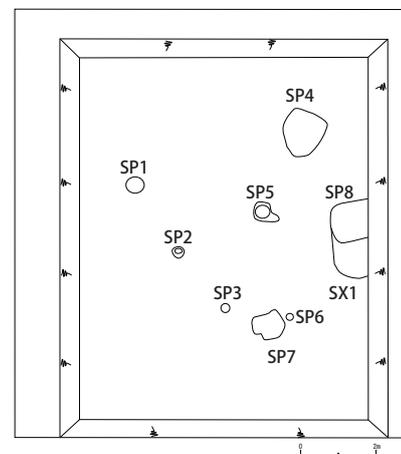
(6) 考察

今次調査地は、南陽市蒲生田字清水上に位置し、現況は耕地整理が実施された水田である。遺跡は旧吉野川右岸の自然堤防に立地する。先に実施した本調査では、方形周溝墓とみられる古墳時代の溝跡、平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、道路状遺構等が検出されており、今次検出の遺構も本調査時の層位から主に平安時代の遺構とみられるが、TT 3 の SD1 は層位から古墳時代以前とみられる。SD3・SD4 は条里制に関連する溝の可能性はある。

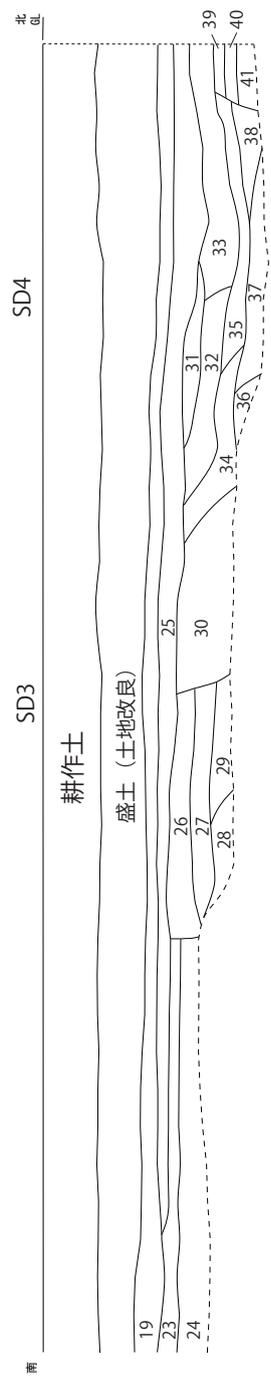
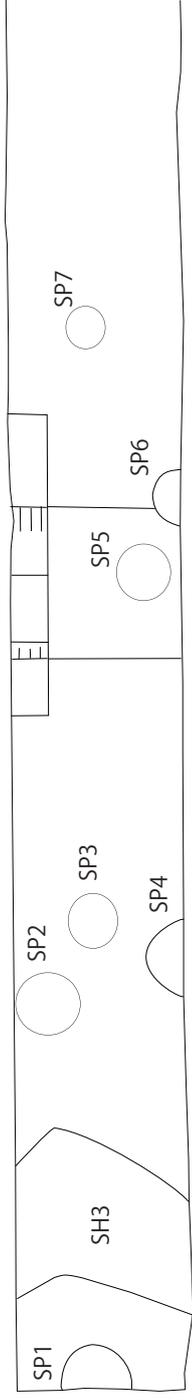
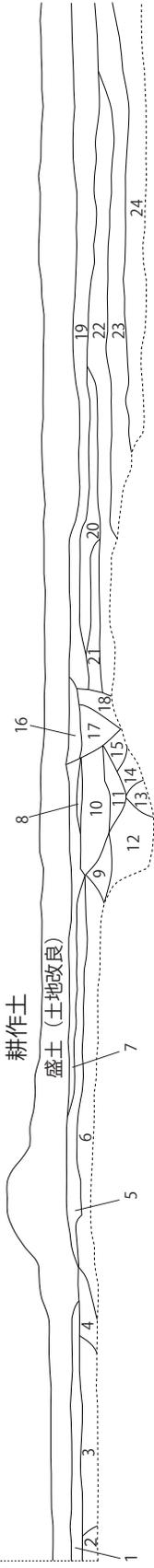
遺構は柱穴の底面に近い状況とみられ、耕地整理による削平の影響が大きいと判断される。出土遺物は平安時代の土師器で、平安時代の集落が存在したとみられる。



第 20 図 清水上遺跡立会調査位置図 S=1/1000

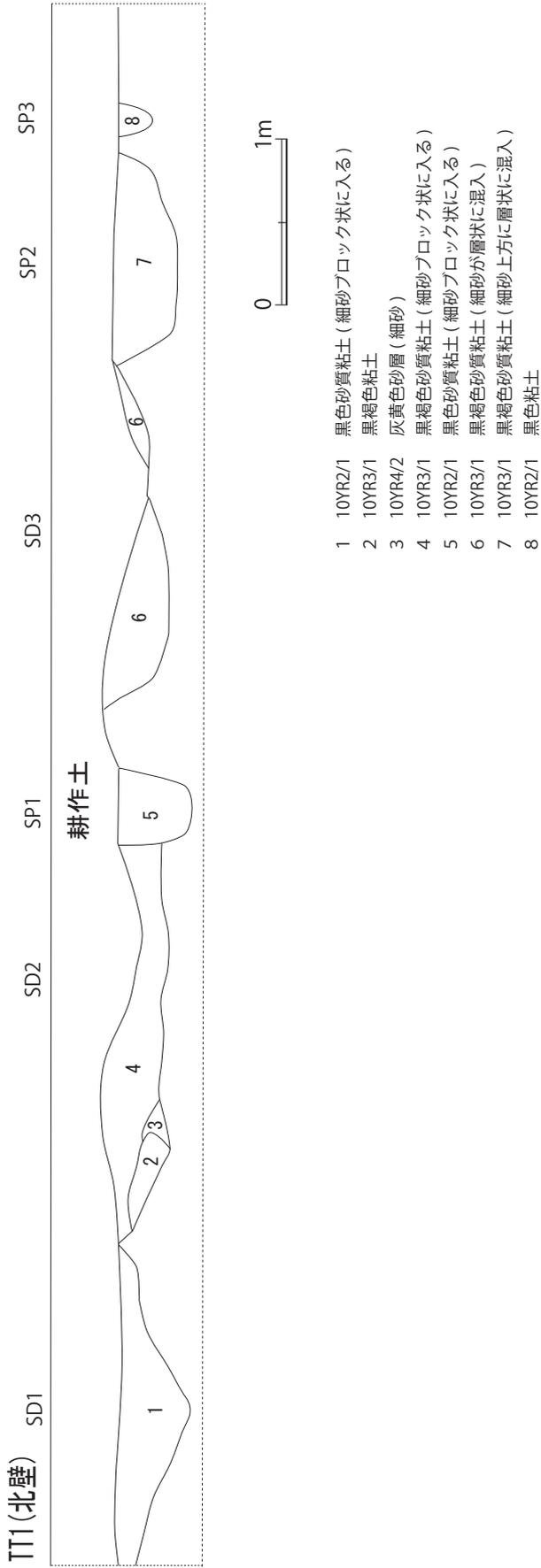


第 21 図 清水上遺跡平面図 S=1/200



- | | | | | | | | | |
|----|----------|----------------------------|----|---------|-------------------------|----|----------|------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色砂質粘土 | 23 | 10YR4/6 | 褐色礫層 (礫 10 ~ 12cm) | 34 | 2.5Y3/1 | 黒褐色砂礫 (砂 1mm) |
| 2 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色砂質粘土 | 24 | 10YR4/6 | 褐色砂礫 (砂 1mm) | 35 | 10YR2/1 | 黒色シルト粘土 |
| 3 | 2.5Y2/1 | 黒色砂質粘土 | 25 | 10YR3/1 | 黒褐色砂質粘土 (礫混) | 36 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色砂礫 (砂 1mm) |
| 4 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質砂層 (砂 0.3 ~ 0.5mm) | 26 | 10YR2/1 | 黒色砂礫 (砂 1mm、礫 2cm) | 37 | 10YR2/1 | 黒色砂質粘土 |
| 5 | 7.5YR3/2 | 黒褐色粘質砂層 (砂 2mm、礫 3cm) | 27 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色砂礫 (砂 1mm、礫 2cm) | 38 | 2.5Y2/1 | 黒色砂質粘土 (灰混り) |
| 6 | 7.5YR2/3 | 暗褐色粘質砂層 (砂 0.5mm) | 28 | 10YR5/6 | 黄褐色砂礫 (砂 1mm、礫 2 ~ 4cm) | 39 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色砂礫 (砂 1mm) |
| 7 | 10YR3/1 | 黒褐色砂質粘土 (橙色粘土混) | 29 | 10YR4/6 | 褐色砂礫 (礫 2cm) | 40 | 10YR2/1 | 黒色砂質粘土 (橙色粘土混) |
| 8 | 7.5YR2/1 | 黒色砂質粘土 | 30 | 2.5Y3/2 | 黒褐色砂礫 (砂 1mm、礫 2cm) | 41 | 7.5YR2/1 | 黒色砂質粘土 |
| 9 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色砂礫 (砂 2mm) | 31 | 10YR3/2 | 黒褐色砂質粘土 (須恵器片混入) | | | |
| 10 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色砂質粘土 (橙色粘土混) | 32 | 2.5Y3/1 | 黒褐色シルト粘土 | | | |
| 11 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色砂質粘土 | 33 | 2.5Y2/1 | 黒色砂質粘土 | | | |

第 22 図 清水上遺跡 T13 平面・断面図 S=1/40



第23図 清水上遺跡 TT 1 断面図 S=1/40

6 柳町遺跡

(1) 調査日 平成 27 年 3 月 23 日、24 日

(2) 調査場所 南陽市宮内字柳町一

(3) 調査原因 民間開発

(4) 調査方法及び内容

当該地は遺跡未確認地であることから、土工事の際に遺構・遺物の有無の確認及び記録を行うこととした。建物本体の基礎工事については、掘削深 50cm であることから慎重工事とし、深さ約 100cm の下水道配管工事の際に立会いを行うこととした。遺構については確認にとどめ、掘下げは行わず平面の記録のみ実施した。

(5) 結果

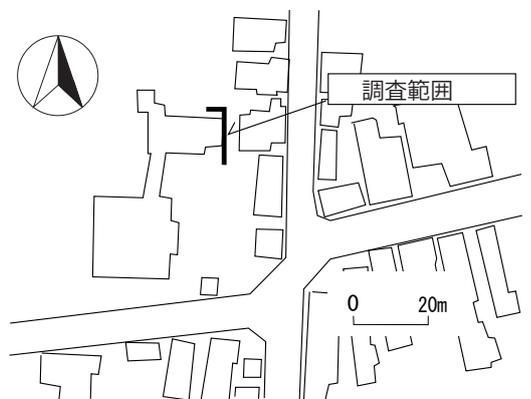
遺物は検出されなかったが、第 1 層上部に近世陶器片が混入する。対象地の北側において、遺構とみられる柱穴と溝跡を検出した。遺構面は、現在の地表から約 75cm 下である。対象地南半は旧便槽及び排水パイプによる攪乱で遺構は確認できなかった。

(6) 考察

今次調査地は、南陽市宮内字柳町一に位置し、現況は境内地である。当該地は、宮内の市街地内にあり、菖蒲沢を流れる宮沢川による扇状地の西部にあたる。

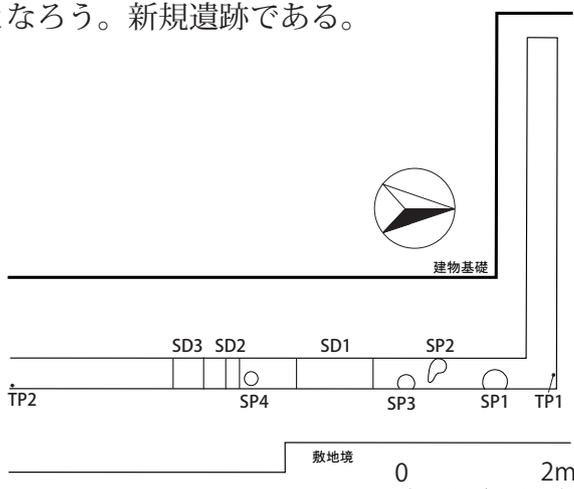
基本土層は、地表面から 38 ~ 40cm までは褐色砂質粘土層（第 1 層）で、その下にややくすんだ褐色砂質粘土層（第 2 層）、暗褐色砂質粘土層（第 3 層）、褐色砂質粘土層（第 4 層）と堆積し、第 3 層上面が遺構面となる。場所によっては第 3 層がみられない。また、周辺では第 1 層の上に現在の耕作土層が見られるが、今次工事地では従前の宅地化によって既に失われていると推測される。

遺構は、柱穴 4 箇所、溝跡 3 箇所である。柱穴の覆土には炭が混じる。遺物が伴わないことから、遺構の時代は不明であるが、第 1 層は近世陶器の混入から近世以降の攪乱層と思われる。遺構は、深さ約 75cm の生活面として良好な褐色砂質粘土層から掘り込まれている。宮内市街地では他に比較できる地質的知見が十分に無いことから、今後のデータの蓄積によって今次遺構面の年代を検討することが課題となろう。新規遺跡である。

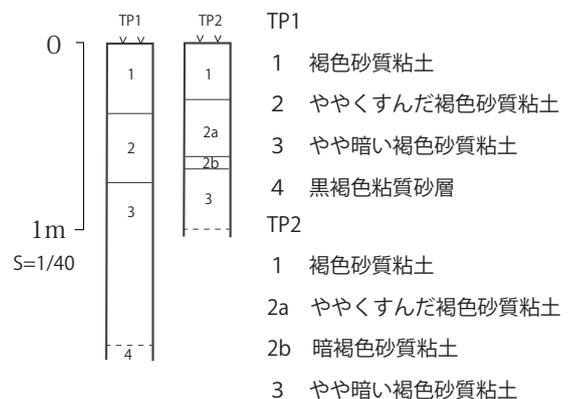


第 24 図 柳町遺跡立会調査位置図

S=1/2000



第 25 図 柳町遺跡平面図 S=1/100



第 26 図 柳町遺跡柱状図



大沢山南斜面、小屋道路向いに15号墳(東から)



上野山15号墳(南東から)



大沢山南斜面にある奥壁状の立石1(南東から)



大沢山南斜面にある立石2(南東から)



字北ノ沢山の東斜面(西から)



字北ノ沢の石材散乱地点(東から)



字夷平山M1(西から)



字夷平山M2(西から)



字夷平山 M 3 (東から)



字夷平山 M 4 (西から)



字松沢山の尾根 (東から)



松沢山横穴(南東から)



松沢山横穴内部 (壁と天井、ノミ跡)



字赤石山の斜面 (北から)



字山神前、山頂平坦地 (地藏)



字段前西側の尾根南端 (庚申塔)



西原遺跡近景（南から）



西原遺跡遠景（東南から）



治兵衛壇遺跡（南から）



沢田遺跡試掘地遠景（南から）



沢田遺跡 TP1



沢田遺跡 TP2



沢田遺跡 TP3



沢田遺跡 TP4



蒲生田館跡 (北から)



蒲生田館跡 (西から)



蒲生田館跡 SD1 (西から)



蒲生田館跡 SD2 (西から)



蒲生田館跡 SD3 (西から)



蒲生田館跡 SD4 (西から)



宮内字田町 (工事前、南から)



宮内字田町 (北から)



宮内字田町既存石積



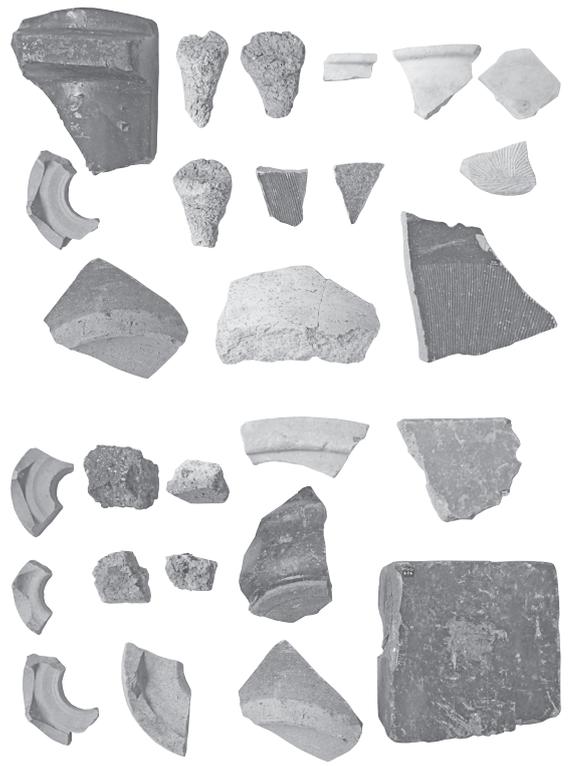
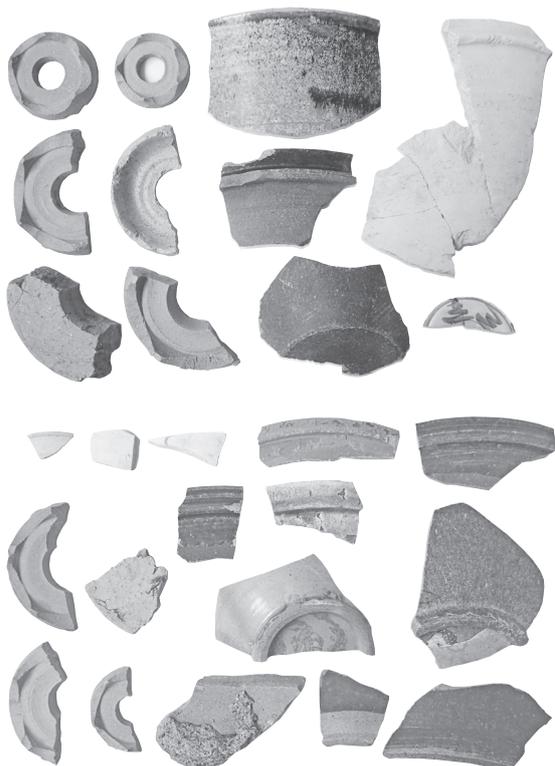
宮内字田町既存石垣



宮内字田町道路側壁
TP1



宮内字田町道路側壁
TP2



宮内字田町出土遺物
図版 5 宮内字田町



富塚遺跡隣地



富塚遺跡隣地土層(南から)



桜田遺跡 (南から)



桜田遺跡東側溝 (南から)



桜田遺跡 SP31



桜田遺跡 SD5 (西南から)



清水上遺跡 (南から)



清水上遺跡 SP1



清水上遺跡 SP2



清水上遺跡 SP3



清水上遺跡 SP4



清水上遺跡 SP5



清水上遺跡 SP6



清水上遺跡 SP7



清水上遺跡 SP8



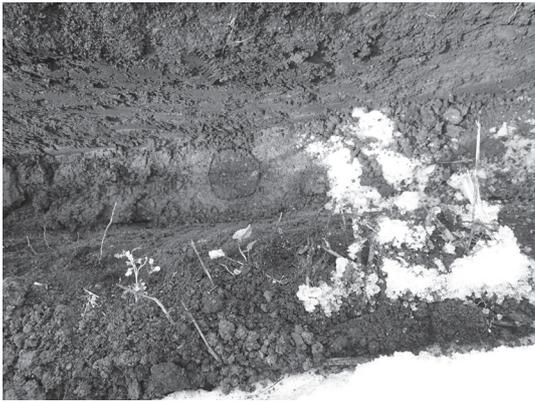
柳町遺跡 (南から)



柳町遺跡 SP1



柳町遺跡 SP2



柳町遺跡 SP3



柳町遺跡 SP4



柳町遺跡 SD1



柳町遺跡 SD2



柳町遺跡 SD3



柳町遺跡

南陽市埋蔵文化財調査報告書第 11 集
南陽市遺跡分布調査報告書（3）
2016 年 3 月 3 1 日

発行 南陽市教育委員会
〒 999-2292 山形県南陽市三間通 436 番地の 1
電話 0238-40-3211（代）
印刷 南陽印刷株式会社
〒 999-2221 山形県南陽市二色根 5-11
電話 0238-43-3028

